

動物の血は無力

2024年9月22日

ヘブル人への手紙 10章1～4節
レビ記 16章

序： 影（型、写し）

地上にある
律法によって定められた古い秩序
将来に現れる実物を象徴、指し示す
幕屋・神殿（人の手で造られた）
人間の大祭司（レビ、アロン系）
動物の血がいけにえ
年ごとに繰り返しささげる

実体

天にある
キリストによって実現した新しい秩序
後に来るすばらしいもの（実物）
天そのもの
神と人との仲介者キリストが大祭司
イエス・キリストご自身がいけにえ
ただ一度だけで完遂

I. 実物の影としての古い秩序

影であって、実物ではない
天にあるものの写し
キリスト（やがて来る完全ないけにえ・大祭司キリストを指し示す役割

II. 古い契約の祭儀（幕屋、いけにえ、大祭司）は人間の罪の解決には無力、無効

神に近づく人々を完全にすることができない

∴もし、年ごとに絶えずささげられるいけにえにより、一度で完全に罪が赦されるなら、もはや罪を意識しないはず（神の前に妨げられず近づくことができる

∴それ以上、いけにえをささげる必要はない、いけにえをささげるのは終わったはず（しかし、実際は年ごとに絶えずささげられている）

むしろ、毎年いけにえをささげるたびに、罪の赦しを得られていないことを再確認する、だから、今後も延々と続けなければならないことになる

III. 動物の血によっては、罪は除かれない

(1)旧約聖書人々もいけにえなしに贖いを得られない、罪の赦しのないことは理解していた

①詩篇 51・16～17

まことに、私が供えても、あなたはいけにえを喜ばれず、全焼のささげ物を望まれません。神へのいけにえは、砕かれた霊。打たれ、砕かれた心。神よ、あなたはそれを蔑まれません。

②イザヤ 1・11

あなたがたの多くのいけにえは、わたしにとって何になろう。一主は言われるーわたしは、雄羊の全焼のささげ物や、肥えた家畜の脂肪に飽きた。雄牛、子羊、雄やぎの血も喜ばない。

③ホセア 6・6

わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない。全焼のささげ物よりむしろ、神を知ることである。

④アモス 5・21～24

わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会の時の香りも、わたしはかぎたくない。たとえ、あなたがたが、全焼のささげ物や穀物のささげ物をわたしに献げても、わたしはこれらを受け入れない。肥えた家畜の交わりのいけにえを献げても、わたしは目を留めない。あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。あなたがたの琴の音を、わたしは聞きたくない。公正を水のように、義を、絶えず流れる谷川のように、流れさせよ。

⑤ミカ 6・6～8

何をもって、私は主の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか。全焼のささげ物、一歳の子牛をもって御前に進み行くべきだろうか。主は幾千の雄羊、幾万の油を喜ばれるだろうか。私の背きのために、私の長子を、私のたましいの罪のために、胎の実を献げるべきだろうか。主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。

いけにえなしに罪の赦しはない + 神への畏れと信頼なしにただ形式的にささげ物をして、それは神に忌み嫌われ、受け入れられない

いけにえは律法に書かれているから必要、だからといって、いけにえをささげさえすれば、よいのではない
ささげさえすれば罪が赦されると考える軽薄さに気づかせ、ささげものをする時の態度に注意を喚起している
自己満足ではなく、神がお求めになっているものをささげ、神が満足されるものをささげる（律法に規定がある）

- IV. ヘブル10・1～4では、罪の赦しのための動物のささげ物のささげ方を云々しているのではない。動物のささげものでは、神に近づく人々の贖いにはならない、礼拝者を完全にすることはできないと言っている。

では、何をささげなければならないか？ 大祭司もいけにえもイエス・キリストでなければ、罪の赦しはないことが5節以降告げられる

ゆえに、私たちが自分の贖いが有効になる唯一の選択は、罪を取り除く神の子羊であり、同時にご自身を父のみまえにささげる大祭司イエス・キリストのみに、信託すること

イエス・キリストを救い主・神と信じ告白したなら、完全に一度きりで救われているのである。以後、主の御許に行くまでの聖化の歩みの中で犯す罪、失敗はその都度言い表し、悔い改めて、赦されて最後まで歩み通すことができる

私たちは世界という大海を救いの船に乗って、天の港を目指している

船長はイエス・キリスト

船内で転倒したり、滑ったり、階段を踏み外したりしてけがをしたり、船酔いや病気になるっても、船内にいる限り安全に守られる

だれも、神の子らを父の御手からも、御子の御手からも奪うことはできない
私たちに求められているのは、神に信託し、従順すること